

区政会議における意見への対応状況
(外部評価意見への対応方針)

[分類]
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
1	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【高齢者の運転免許証の自主返納について】 高齢者の運転免許証の自主返納について、阿倍野区での状況をお聞きたい。 また、阿倍野区で自主返納された方に対する特典としてどのようなものが用意されているのかを教えてください。 (金光委員)	運転免許証の自主返納については、高齢ドライバーの事故防止の観点から非常に有効な施策とも考えており、阿倍野区役所でも阿倍野警察と連携して、自主返納の状況、それに対する特典についてホームページでも公表しています。昨年度で500件弱の返納があったと聞いています。この件については、以前もその有効性について、本区政会議でも度々指摘もいただいていますので、警察と連携して取り組んでまいります。 (松下市民協働課長)	①
2	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【ヤングケアラーについて】 ヤングケアラーについて、学校のケースワーカーさんに学校の問題を相談するのであれば良いが、家の愚痴を学校のケースワーカーさんには言いにくいと感じている子どもたちも多いようなので、相談というよりも、ちょっと愚痴を聞いてもらえるような窓口が阿倍野区の中にもあればと思う。 (金光委員)	ヤングケアラーの相談窓口を開設していますというお知らせを12月3日にホームページで公開しており、区役所3階の子育て支援担当で相談をお受けしています。平日は5時半まで、金曜日は夜7時まで開設しています。また、電話でもご相談をお受けしていますので、お気軽にご相談していただきますようお願いします。 (伊村保健子育て担当課長)	①
3	R3.12	第3回区政会議 全体会	【ヤングケアラーについて】 ヤングケアラーの中にはつらい思いをしていると思っていない子どももたくさんいると思う。例えば、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きで、いろいろケアするのは当たり前のことで苦にも思っていない。でも、その事で学校を休みがちになったり、クラブは諦めるとかで、ヤングケアラーの状態になっていることを本人が気付いていない子どももたくさんいると思う。その中でどのようにして早期発見、早期対応していくのか、例えば子どもにアンケートを取るなど、具体的な内容を教えてください。 (本庄委員)	区としては、子ども達の変化などについて、子ども達が多くの時間を過ごす学校の先生方が気付きを拾い上げる仕組みとしてこどもサポートネットがあり、学校と連携して会議を行い、課題のある子どもについて共有し、何か支援につなぐ必要があれば、区役所と連携して行っています。 児童虐待についても専門員を配置し、こどもサポートネットとは別の観点で2か月に1度、学校などを回り、変化のある子どもの状況を聞き取るなどしています。本市としては、調査票を中学校へ配送し、実態調査を12月24日までに実施するよう進めています。 子ども達に情報を知ってもらい、こういう状況がヤングケアラーですよという気付きができるよう、区としては今後、どういった周知の方法があるかも含めて考えて取り組んでいきます。本格的には来年度からの実施となりますが、現時点では、先ほどの相談窓口の開設をホームページとTwitterで広報したという段階です。 (伊村保健子育て担当課長) ヤングケアラーというのは、実態調査を続けていますが、本人がヤングケアラーであるという認識が乏しいということもあり、また、気軽に相談できる場所を作してほしいとのことで、区役所の子育て支援室にも窓口を設けていますが、学校の中でも相談しやすいようスクールカウンセラーも増員しながら、学校内でも受け止めができる場所を充実していくことも検討していますので、そういったことをしっかりと周知してまいります。 (佐藤副区長)	①
4	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【アンケートについて】 私個人の見解にもなってしまうが、一般的にアンケートにお答えいただいた方がすべて本音でしゃべっているのかというのは甚だ疑問があり、どうしても表面的なところしか見えてこない面があると思う。定数指標の目標を達成している、していないだけに聞わず、実際に取ったアンケートの中で区政に対して厳しいコメントが入っているところこそ、住民が本来求めていること、区に対してやってほしいことが書かれていて、課題を解決するヒントが眠っている思うので、そういったところもピックアップしてほしい。 (高橋委員)	区民モニターアンケートの自由記述でいただいたご意見は、報告書に掲載しています。報告書は下記の区ホームページで公開していますので、ご参照ください。 https://www.city.osaka.lg.jp/abeno/category/3413-5-3-2-5-0-0-0-0-0-0.html	①
5	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【YouTubeでのコメントへのリプライについて】 具体的取組5-1-2区政情報の効果的な発信で、ホームページ、SNS、YouTube動画の毎月発信と書かれている。私も阿倍野区役所のYouTubeはチャンネル登録して見ているが、発信のみであって、コメントを出しても、リプライ(返信)がない。ということは、区役所からの一方通行と受け止められかねない。親近感を感じてもらうには、手間はかかるが、なるべくそのコメントを返すということを考えてほしい。 (東野委員)	YouTubeを含めたSNSは各問合せ先フォームなどとの差別化のため、コメントには個別返信しないこととしていますが、親近感を持っていただくためにも、期間を限定して特定の動画でコメント募集をしてコメントを返す、Twitterで実施しているようなアンケートをするなど、双方向性のある企画を行うことも含めて検討してまいります。	②
6	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【住みます芸人について】 各区に住みます芸人がおり、阿倍野区ではピコーン！さんがいる。芸人さんのスケジュールなどの問題はあと思うが、素人や区役所の職員が慣れないトークをするよりも芸人の方が面白くしゃべって、みなさまに親近感を感じてもらえると思うので、なるべくこの方たちをイベントなどで活用していただければと思う。 (東野委員)	住みます芸人は地域の一層の活性化のための制度ですので、今後も区役所で積極的に活用していくのはもちろんのこと、制度の広報周知や申請方法の簡易化など、地域でもより一層活用していただけるように努めてまいります。	②
7	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【防犯について】 防犯対策・阪南地域ではこの1～2年「ひったくり事件」で地域の防犯カメラを見る事案がありませんでした。今の主流の犯罪は「還付金の振込詐欺」。毎月の「阿倍野警察交番だより」で報告されていますが被害件数・被害額は多大であります。高齢化社会、高齢者の一人住まいの方・近所付き合いが希薄な方・認知症の方等犯罪被害を受けそうな方が多くおられます。被害防止の広報の100点満点はありません。注意喚起を「広報あべの」で継続的に発信をお願いしたい。(相手はプロ集団です。仕事として毎日電話をしています) 阪南地区もポスター・回覧チラシ・チラシの高齢者宅へ全戸配布をしています (久保委員)【ご意見シートによる意見聴取】	特殊詐欺の多発につきましては、区役所としても認識しており、広報紙等におきましても注意喚起をしています。また、各地域にて実施されています100歳体操等の中で時間をいただき、直接的にも啓発を行っています。引き続き、各地域へ周知するにとどもあらゆる機会を見い出しながら啓発をしてまいります。	①
8	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【自転車の交通事故について】 自転車の交通事故・小・中に加害者になるという視点からの注意喚起は？ (北村委員)【ご意見シートによる意見聴取】	小・中学生への交通安全教育については、区役所と警察が連携して実施しており、小学生の高学年(5・6年生)には、交通安全教室で自転車の通行ルールの啓発と合わせて自転車事故の加害者になる視点も内容に含め実施しています。また、中学校では、交通安全講習の中で自転車事故の加害者になる視点も内容に含めて実施しています。	①
9	R3.12	第3回区政会議 全体会	【ヤングケアラーについて】 ヤングケアラーの検出はかなりハードルが高いように私も感じています。 本人に自覚がないということもあるでしょうし、周囲から「ヤングケアラーに該当するのではないか」と指摘されることで心を壊してしまうということもあるかと思うんです。どういう状況を「ヤングケアラー」というのか、どこで、どんな支援を受けることができるのかを身近なところで目にする機会を広げること大切なのではないかと思いました。 例えばTwitterなどで「頑張りすぎてないかな?」など共感から気付いてもらえるような文言を掲載し、自ら該当するのかもと気付くよう仕向けるとか、高校生でも遠慮なく「こども食堂」が利用できるんだと知ってもらうよう誘導するなど。 どうしても「こども食堂」は小学生だけが対象のような印象があります。 (金光委員)【ご意見シートによる意見聴取】	ヤングケアラーの支援に向け、本市では副市長をプロジェクトリーダーとする、「ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議」を立ち上げ、令和3年12月23日には、第3回目の会議を開催したところです。プロジェクトチーム会議においては、国の連携プロジェクトチームの報告や国の取組みが共有され、各関係者の気づきの感度を上げ、気づきから支援につなげていく流れの構築に向けた対応を進めています。早期発見・把握の取組みとしては、市立中学校教員、こどもサポートネット関係職員、民生委員児童委員等への動画配信型研修を行い、また支援策の推進としては、1人1台学習用端末を活用した相談体制の充実を行い、来年度には、その機能拡充を予定しています。区役所においては、相談窓口の明確化を行い、来年度から集中取組を行う社会的認知度の向上について準備を行い、ヤングケアラーであることが悪いことだと受け止められないようにすること、また、課題があるのは、子どもたちが家族の世話や介護をしていることではなく、それが過度な負担となって勉強に支障をきたしたり、子どもらしい生活が送れなかつたりすることだと伝わるよう各関係機関と連携し、周知してまいります。 なお、こども食堂につきましては、常盤地区の「トキワの森」や清明丘地区の「みんなの食堂」など、高校生も参加していただけのものもあります。下記の大阪市社会福祉協議会ホームページでは、地域こども支援ネットワーク事業として、こども食堂・学習支援をはじめとするこどもの居場所づくりの活動をご紹介しています。 https://www.osaka-sishakyo.jp/project/child-network/	①
10	R3.12	区政会議 全体会 第3回	【地域福祉の推進について】 めざす成果及び戦略3-1の推進について、コロナで疲弊した生活の支援は、複合的な要素が増えているので、多機関の連携ときめ細かな相談体制の構築が必要です。地域福祉計画の推進は、他都市の先進的な例も参考にして議論できたらと思います。 (永岡委員)【ご意見シートによる意見聴取】	複合的な課題を抱えた方を適切な支援につなげるため、つながる場(総合的な支援調整の場)が、より成果をあげることができるよう、ノウハウを蓄積しながら、各相談支援機関及び区役所内各担当との連携強化に取り組んでまいります。 阿倍野区地域福祉計画について、部会等でその進捗に関する情報交換、課題集約を行う際は、他都市の先進的な事例もご参考いただけるよう、情報収集にも努めてまいります。	① ②
11	R3.12	第3回区政会議 全体会	【支えあ地域づくりにについて】 経営課題3 支えあいの町づくりは行政の戦略が必要だと考える。「町会」組織は地域の行政への協力意識高く、組織的に活動できる。事実上の行政の業務下請けと見え、一方で「町会」組織は、自由参加・ボランティアの組織という矛盾を持っている。社会の変化で「個人の自由・権利」が大きく取り上げられる今、傾向としては、「町会」が消滅していく方向にある。 ※現在のボランティア意識の高い高齢者層が引退していけば今の「町会」組織が消滅する。 今の「町会」組織が消滅すると、「めざすべき将来像」の支えあいは「個人の問題」となって真逆に向かう。 限られた人材の行政組織で「めざすべき将来像」を達成するための基礎は、「町会」という自治会組織をどう育てるにかにかかっている。美辞麗句を盛り込まれた啓発の文面では動かない。「笛吹けど踊らず」となる。 また、行政の予算で活動している「社協」や専門スタッフなどを利用して、区が設定した「事業」の展開で「めざすべき将来像」にあわせている方向にあると言えるが、これでは根本的課題の「地域ネットワーク」づくりには限界がある。 地域住民のほとんどが参加する阿倍野版「地域ネットワーク」としての町会」をつくりあげることが「めざすべき将来像」を達成することにつながっていくのではと考えるが、まずは現存の町会の継続の問題(先に述べた、このままでは消滅)を小さいことから、まさに「協働」しないといけない。この「協働」については、役所のリーダーシップで「育てる＝支援と知恵」が必要だと思っています。 (北村委員)【ご意見シートによる意見聴取】	「阿倍野区に暮らす、すべての人々が住み慣れた地域で、人として尊重され、お互いが支えあい、自分らしくいつまでも安心して幸せに暮らせるまちづくり」を進めていくためには、地域のつながりの基礎となる自治会・町内会の活動はなくてはならないものと考えています。 日頃の見守り等のボランティア活動についても自治会・町内会のご協力が大きな力になっています。 引き続き自治会・町内会単位の活動や加入促進について、広報紙や区ホームページ、Twitter等による周知など、地域活動の活性化に向けた支援に取り組んでまいります。	①

- 〔分類〕
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
12	R3.12	区政会議 第3回 全体会	【新たな地域福祉活動の支援について】 令和4年度の阿倍野区運営方針（素案）において、区政会議意見を取り組み内容に積極的に取り入れていただき、ありがとうございます。 経営課題2のヤングケアラーへの取組みや、経営課題3の「地域福祉計画の推進」の項目が追加され、また、3－1－1の「みんなで支えあう地域づくり」でも、『コロナ禍で地域でのつながりづくり、要援護者の社会参加の場作りが困難な状況にあるので、新たな発想と取組みが必要』との意見を受けて、『新たな活動への支援』が追加されました。阿倍野区内の支援が必要な方々への取組みがより一層推進されると期待します。 「新たな活動への支援」の具体的な取組みについては、誰もが地域の中でいきいきと自分らしく活動できる場を創造できるよう、できるだけ当事者の方々の声を聴き、中心に据えた支援を進めていただきたいと思います。 例えば、区内で認知症の人の本人会議等を定期開催し、当事者の方々とおし、また、支援者と交流して話し合うことで、想いを具現化できる活動や取組みの新たな発想が生まれてくる。そして、その発想を経営課題4の地域の活動支援事業ともリンクすることで、地域の新たな担い手や、企業や他団体との連携等によって、阿倍野区全体や各地域での新たな取組みを創造する活動が進むのではないですか。 （中村委員）【ご意見シートによる意見聴取】	「新たな活動への支援」を進めていくにあたっては、当事者のご意見をお聞きし、そのニーズを把握することがきわめて重要であると考えています。 区社会福祉協議会（「区社協」）と連携し、様々な機会をとらえて区民のニーズや課題の把握に努め、必要なサービスや支援の創出に努めてまいります。 その一環として、区社協では、大阪市から受託した生活支援体制整備事業の中で、これまでの老人福祉センターでのサークルへの申込状況をふまえ、地域でスマートフォンの操作方法を教えるボランティア養成講座の募集を行う予定です。 具体的に取組みを促進するためには、地域住民、ボランティアやNPO、社会福祉施設や民間企業等との情報共有・連携していく必要があると考えており、区社協とともに地域との関係づくりに取り組んでまいります。 認知症の方への新たな支援については、認知症カフェ等の場を活用しニーズの把握に努め、認知症地域支援推進員（認知症強化型地域包括支援センターに配置）とも連携して検討し、部会でご議論させていただければと考えています。	① ②
13	R3.12	区政会議 第3回 全体会	【運営方針の全体を通した意見について】 全体を通して 課題解決の文面の中に様々なところに「・・・支援します。」と記載されている。 裏返して見れば、「行動するのは、あなたたち地域住民です。」ということ、美辞麗句的に書かれています。 人材に限られる区役所としては、仕方がないとは思いますが、「一緒に知恵を絞る」という姿勢と、先に述べた今の「町会」組織が消滅する前に組織作りの知恵と支援から取り組んでもらえたら考える。 広報紙あべのに「町会に入りましょう」の文言掲載は、記載の意味は大きく、以前の「自治会」と一線を画す路線からは前進したが、この程度で、人は動かない。 （北村委員）【ご意見シートによる意見聴取】	地域のつながりの基礎となる自治会・町内会単位（第一層）の活動等を、広報紙や区ホームページ、Twitter等での周知を行うことにより、地域活動の活性化及び、様々な活動主体と地域との連携・協働を促進しています。 また、広報紙令和3年1月号から10月まで、毎月1地域ごとに各地域の活動について掲載させていただきました。 自治会、町内会（第一層）を含めた地域活動の周知について、引き続き取組みを進めてまいります。 今後とも、広報あべのにおいては町会情報を含めた、区民の方・地域の方に伝えるべき情報・必要とされている情報を、わかりやすく伝えられるよう努めてまいります。	①
14	R3.12	区政会議 第3回 全体会	【情報発信と情報収集について】 単に情報発信だけでなく、透明性の高い情報の発信と幅広い情報収集を行うことで、レスポンスのよい行政となる。 （北村委員）【ご意見シートによる意見聴取】	区政会議や各種アンケート調査などを活用し、区における施策や事業について、企画・計画段階でのご意見、その成果にかかる評価に対してのご意見、表面化しにくいものも含めた多様な区民の意見やニーズを的確に把握・情報収集し、施策・事業に反映することに努めています。 今後とも、透明性の高い行政運営をめざし、区民が必要とされている情報の発信に努めてまいります。	①
15	R3.12	区政会議 第3回 全体会	【あべのんの歌について】 高校生くらいの年齢の子にとって、心の故郷の歌の1つに「あべのんの歌」があるようなので、「あべのんの歌」もあべのブランドに推薦したく思います。 「小学生の頃、下校時間になると青バトがあべのんの歌を流して」と、うちの息子は今もサビの部分を唄うことがあります。 今も コロナ禍に関係なく青バトが下校時間に「あべのんの歌」を伴って巡回しているのだから、たいへんうれしかったです。個人的に最近では耳にしていないので、もったいないなあと感じています。 卒業式などで、区内の子どもたちは必ず大阪市の歌を歌うため、大阪市の歌をほとんどの子どもたちは歌うことができます。（金光委員）【ご意見シートによる意見聴取】	阿倍野区マスコットキャラクターあべのんのイメージソング「おいで あべのん」は、区ホームページから聴くことができるようにしています。 また、新型コロナウイルス感染症関連の注意喚起を行う際などは流していませんが、通常は「おいで あべのん」を流しながら青バトでの巡回を行っています。今後とも青バトなどで流しながら防犯パトロールをすることに加え、区役所の行事などでも活用してまいります。	①
16	R3.12	区政会議 第3回 区政会議 全体会	【講演会での音声通訳ボランティアについて】 先日私は、区役所で実施された人権講演会に参加いたしました。 手話通訳ボランティアさんが配置されていたのは素晴らしいと思いますが、視覚障がい者に対する音声通訳ボランティアの配置がされていなかったことは、残念に思います。 パルコープなどの民間団体主催のイベントでは、数年前から視覚障がい者に対しての音声通訳ガイドボランティアさんの配置も浸透しております。 今回の人権講演会の中に限って言うと、2パターンの女性の職業はどれだかという質問がありました。通訳ガイドが先に6つの選択肢があることを伝えてくれていたなら、私たちもそのクイズに参加することができました。 また、アンケートの代筆も私は依頼できましたが、視覚障がいを持つ私たちにとって、スタッフも透明人間と同じなので、透明人間を捕まえるのが困難のように、他の視覚障がいを持つ参加者はアンケートの代筆を依頼するタイミングもつかめないままに帰宅したようです。 聴覚障がい者に対して手話通訳ボランティアさんを配置するように、視覚障がい者も1か所に固めて、音声ガイドボランティアも若干名配置するだけのことで、手間はそれほどかかりません。しかも阿倍野区には「フルフルール」というガイドヘルパー事業があるので、派遣も容易かと思われます。 （金光委員）【ご意見シートによる意見聴取】	人権講演会の際に、視覚障がい者の方にお声がけするタイミングなどで至らなかった点があり、ご不便をおかけしたことにについてお詫び申し上げます。今後は視覚障がい者の方にもご不便をおかけすることのないよう、職員を配置いたします。 また、講演会をお聞きになるにあたり配慮が必要な場合は事前にお申し付けいただくようにアナウンスし、その内容を講師とも情報共有を行うことで、お一人お一人が安心してご参加いただけるよう努めてまいります。 このご意見については区役所内で情報共有を行い、皆さまに等しくご参加いただけるよう努めてまいりますので何卒よろしくお願いいたします。	①
17	R3.12	区政会議 第3回 全体会	【区役所駐車場について】 阿倍野区役所正面（西側）駐車場について、利用者にとって無料になることは大変嬉しいことだと思います。ただ、出入口については歩道を横切らなければならないので、ブザーを鳴らすとかの安全対策をする方が良いのでは。また、裏側の駐車場の出入口も同様だと思うが、いかがでしょうか？事故が起こってからでは遅いので、この際実施すべきかと思います。 （宮本委員）【ご意見シートによる意見聴取】	区役所駐車場の安全対策につきましては、建物の構造上、正面（西側）・裏（東側）駐車場とも歩道を横切らざるを得ない構造となっています。 この度いただきましたご意見を参考に、今後効果的な安全対策の早期の実施に向けて、研究・検討してまいります。	②
18	R4.6	区政会議 第1回 全体会	防災の関係で、コロナウイルス感染症関係の備蓄には対応しているのか。 対応しているならどんなものが備蓄されているのか。 【今井委員】	災害時避難所の感染症対策に対応した備蓄物資として、医療用のガウンやマスク、消毒系物品、透明シートや間仕切りなど、感染症対策に必要な物資を備蓄するとともに、それらの使用方法などを映像で紹介するDVDを作成して自主防災組織に配布いたしました。	①
19	R4.6	区政会議 第1回 区政会議 全体会	ジェンダー社会ということで女性の参画を区役所として推進していく必要があると思う。地域防災リーダーや避難所運営など女性の目線を取り入れた防災活動の企画することによって、よりの確な避難計画につながると思う。 また、区政会議も男女が半数で、議長が男性であれば副議長は女性が就任するといったことがあっていいのではないか。 【今井委員】	防災リーダーにつきましては、現在370名を超える登録をいただいておりますが、女性の防災リーダーは28名で女性比率は8%となっています。一方、各地域では町会女性部を中心に女性防火クラブを組織していただき、日々消防署が防火活動や啓発活動を支援しています。現在195名が活動されており、災害時には地域の災害対策本部や避難所運営委員会为中心的な役割を担っていただくことになっています。避難所運営はもちろん、災害の初期初動におきましても女性の視点は非常に重要と認識していますので、引き続き防災リーダーの推薦などの際には、女性の選任をいただきますようお願いいたします。 大阪市の審議会の指針では、女性4割が基準のところ、現在、区政会議の女性比率は3割弱となっています。区政会議委員につきましては、地域の代表の方、各種団体の代表の方、公募委員で構成されており、男女や年齢も含めた観点で、多様なご意見をいただきたいと思います。また、議長・副議長の選出は、区政会議委員の互選となっております。	②
20	R4.6	区政会議 第1回 区政会議 全体会	老朽化した空き家は、建て方等によって大阪市の内部で担当する部署が違う。区役所や都市整備局に相談した結果、所有者に是正するように通知しているようだが、何も前進しなかった。 地域住民は、危ないとか常々思っているが、実際に建物に被害が出ないと動けないと感じた。 所有権等難しい問題であるが、地域からは、所有者に直接交渉したりすることは難しく、どうしても役所を頼ってやっていく。空き家が増えているので、地域の大変な問題となっていくと思う。 【今井委員】	空家対策については、平成27年5月に「空家等対策の推進に関する特別措置法」（以下、空家法）を策定し、空家等対策に取り組んでいます。 空家法により、建築基準法に基づいて指導してきた老朽危険家屋（保安上危険な家屋）だけでなく衛生・景観・環境等について問題を抱えている空家等についても指導できるようになりました。 区役所では、通報を受けましたら、現地調査を行い所有者を調べ、所有者に対して文書伝達による指導を行い、所有者責任による是正を促しています。 瓦がずれて落ちそうな状態等で危険な時は、消防署にお電話いただければ一時的ではありますが、危険な箇所を排除していただけます。 長屋については、長屋を1戸単位で見ますので、一部でも住んでいましたら、それは空家法ではなく、建築基準法での指導となり、大阪市計画調整局が対応しております。 そのように、指導の権限が変わりますが、空家のことで何かご不安がありましたら区役所にご相談をお願いします。	②
21	R4.6	区政会議 第1回 全体会	大阪市のコールセンターに、「今日、大阪市内で子どもを誘拐します」という情報があり、小学校は対応に追われたと聞いている。府立の工芸高校と私立の明浄高校に聞くと情報を知らなかった。府立や私立であろうが地域の中にあるので情報共有するべきでないか。 また、夕方の下校時間の中に区役所の方も参加等を考えてほしい。 【東野委員】	学校や区役所としても同様の情報を入力した際には、地域役員との共有を行い、区役所地域まもり隊によるパトロールの強化のみならず、区職員の外動時等に警戒を行うとともに、積極的に情報発信にも努めてまいります。	①
22	R4.6	区政会議 第1回 区政会議 全体会	全国的に高齢者の交通事故が増加しているように思う。阿倍野区における高齢者の免許返納はどのように推移しているのか。又、年度別返納推移等わかれば教えてほしい。 【宮本委員】（ご意見シートによる意見聴取）	阿倍野区では、警察署と連携し、「高齢者運転免許自主返納サポート制度」について、区HPでの情報発信や、区役所の各窓口にチラシを配架し、高齢者ドライバーの運転免許証自主返納の推進を図っております。 〔参考〕阿倍野警察署において受理した運転免許証返納件数 ※阿倍野区外居住者含む （令和2年分）491件 （令和3年分）482件 また、大阪府では、高齢者ドライバーが運転免許証を自主返還しやすい環境づくりのため、「高齢者運転免許自主返納サポート制度」を行っています。これは運転免許証を自主返納し運転経歴証明書の交付を受けた大阪府在住の65歳以上の方が、サポートする企業・店舗において様々な特典を受けられるものです。区のホームページからも制度の内容が詳しくわかるページを紹介しています。	①
23	R4.6	区政会議 第1回 全体会	こどもたちと阿倍野区身体障がい者団体協議会との交流の場も設けていただけたとうれしく思う。 「地域福祉活動に参加したことのある区民の割合：6年度までに40%以上結果：20.8%」という結果は、地域福祉に携わる立場として、少し残念に感じる。 【金光委員】（ご意見シートによる意見聴取）	障がいのある方に福祉教育にご参画いただき、こどもたちとの交流の場を設けていくことについては、福祉教育プログラムの事務局を担う区社協と連携し、機会を増やしてまいりたいと考えておりますので、今後とも協力をお願いいたします。 地域福祉活動に参加する区民を増やすための取組については、部会でいただいたご意見もふまえ、区社協と連携・調整しながら、検討を深めてまいります。	①
24	R4.6	区政会議 第1回 全体会	令和4年度運営方針の経営課題3－1について、目指すべき将来像の実現に向けて、過去何年も具体的取組は同じ記載で疑問を感じる。特にコロナ禍でサポートを必要とする人にとって、状況があり困難になっている中で、新たな課題を把握し、課題解決に向け、区の状況に応じた独自のきめ細やかな活動が必要だと思う。新設された「新たな活動への支援」に期待する。 【中村委員】（ご意見シートによる意見聴取）	サポートを必要とする当事者の人たちを巻き込み、当事者の人たちから発信する活動をボランティアが支援し、応援したいという団体を含めた地域づくりに広げていくため、他都市等の事例を十分勉強して、区社協と連携・調整しながら、検討を深めてまいります。	①
25	R4.6	区政会議 第1回 区政会議 全体会	「あべのブランド」の「あべのdakara（だから）」の冊子は、どこでもらえるのかわからないというお声を聞く。スタンプの設置場所に冊子がないところもあると聞いたので、どこでもらえるのか教えてほしい。 より一層よく磨きをかけて、デジタルスタンプラリーを実施することですが、どういったものが教えてほしい。 企業、お店、商品をもっと紹介したいが、偏った情報になると言われるイメージがあるが、どのように企業や商品を「あべのおさんぽMAP」で魅力情報発信し、充実させていくのか教えてほしい。「あべのって」でも協力しやっていければと思う。 【大森委員】	冊子「おさんぽmap」については、区役所、区民センター、キーズモール、ハルカスなどに配架しています。 冊子の内容については、初回に作成しましたmapに掲載している42か所の都市景観資源や歴史施設に加えて、大阪市あきないグランプリの入賞店舗や、中小企業の顕彰制度、大阪製ブランドなどで認定されているお店や企業について掲載し充実させてまいります。 また、今年度実施するデジタルスタンプラリーはスマートフォンを使用しweb上でQRコードを読み取ることでスタンプを獲得できる仕組みとなっております。	②
26	R4.6	区政会議 第1回 全体会	コロナ禍でいろんな行事が2年間ほどできなかったが、あべのカーニバルは、どのような方向で運営していくのか、コロナ禍前のような運営を考えているのか。 【二家委員】	カーニバルも含め、すべての区役所の事業に共通することですが、新型コロナウイルスの感染症対策を徹底したうえで、イベントなども開催していきたいと考えています。 あべのカーニバルにつきましては、実行委員会で検討し、現状であれば、感染症対策を万全にして現地開催できるのでないかと確認をいただきました。 企画委員会においても、開催方法について検討いただき、現地開催ができるよう取り組んでまいります。	①

【分類】
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
27	R4.6	区政会議 全体会議	カラスの産卵時期である5月だけ、ごみ回収車の到着時間がいつもより少し早いと感じます。出し忘れ者への配慮なのか、何度も巡回しているように思います。 路上喫煙禁止区域の広がりとともに、ごみの散らかりがないまちというのは、とても魅力的なまちだと思う。 【金光委員】（ご意見シートによる意見聴取）	魅力的なまちづくりのひとつとして、ごみの散らかりのないまちづくりに向けて、関係局と連携して引き続き取り組んでまいります。	①
28	R4.6	第1回区政会議 全体会議	オンライン宣言は、非常に面白いと思うし、楽しみだと思っている。 閲覧板のような昔からのものを踏襲していくというのも大事な部分であり、すべての人がオンラインで対応できるのかということにはわかっていないが、40代より下の世代は逆にオンラインのコンテンツが弱いと魅力を感じない。 阿倍野区の情報や生活の中で自分たちに密着した情報はスマートフォンやSNSで収集することが多く、面白いコンテンツがあれば、盛り上がり、たくさんの世代に伝わるきっかけとなる。 オンラインを使った広報活動等を最重要として力をいれていただき、実りあるものになると阿倍野のことを理解し、参加してみたいという気持ちになると思う。 【高橋委員】	区の広報紙・掲示板や地域の閲覧板・掲示板など従来の形の情報発信も引き続き行いながら、ホームページやSNSでの情報発信、動画の活用などオンラインのコンテンツもより充実させることにより、すべての世代に各々適切な方法で区政情報が届けられるよう今後も努めてまいります。	①
29	R4.6	区政会議 全体会議	運営方針の目標に対する達成率が100%の取組もあるが、どのような調査をしているのか。とても少ない分母での結果や項目ごとに基準が違うところが気になる。区民の満足度とは少し距離感があると感じた、できるだけ実態に近い評価の数字で測定する方がいいと思う。 【中村委員】	目標に対する達成度の測定方法としては、区民モニターアンケートや事業への参加者アンケート等、取組ごとによるアンケートの対象者が異なります。区民モニターアンケートは、2,000人を無作為抽出し、800人程度の回答をいただいております。一方で参加者アンケートは母数が少ないという状況があります。 今後も、取組の効果測定として、よりふさわしい目標設定に努めてまいります。	②
30	R4.6	区政会議 全体会議	広報あべの音声版では、「QRコードが記載されています」や「二次元コードが記載されています」と原稿通りに読み上げられているので、肝心の連絡先などがわからない。音声版には、電話番号等の連絡先を入れてほしい。情報格差がないようにお願いしたいと思う。 【金光委員】	広報紙に二次元コードを記載している場合は、音訳版および点訳版の作成の際に、電話番号やパソコンでの検索ワードを合わせて説明するなどして、情報格差のないよう区政情報が届けられるよう今後も努めてまいります。	①
31	R4.6	第1回区政会議 全体会議	SDGSの観点からも「今回のカラー版のような、見て分かる概要版」だけにするをご検討願いたい。 資料のp62（総括表）の説明が無かったのですが、どこを参照すればよいのか。 6/9の区政会議全体会で、ある町会長から地域での具体的な困りごとが示されたが、結論は、役所のたらいまわして「どうしようもない事」と片付けられたということでしたが、ここに、役所の姿勢が垣間見えるというとても重要な発言があったと思っている。 「小さな困りごとに耳を傾けてくれる」、「親身になって対応しようとしてくれる」という行政の姿が見えることは、阿倍野区の目標「安全・安心なまちづくり・住みたいまちづくり」のために役所は活動しようとしていると言えます。 目標を「絵に描いた餅」とならないようにしてほしい。 区政会議は、阿倍野区のいろんな代表が集まるせっかくの機会であるため、会議に参加する委員から、限られた時間の会議の中で役所からは見えない問題点が出るような会議にもらって、その意見を上手に活用してもらいたい。 参加している委員は反対のために参加しているのではなく、区政運営に協力する視点で疑問点や問題点を伝えたいと思っている。「小さな困りごとに耳を傾けてくれる」姿勢で対応してほしい。 【北村委員】（ご意見シートによる意見聴取）	区政会議資料については、SDGsの観点もふまえつつ、図表や写真等も活用し、わかりやすい資料づくりに努めてまいります。 運営方針様式5の総括表の説明については、「2021阿倍野区事業報告書」の区長の自己評価に含める形でご説明させていただきました。 また、様式5の総括表は達成状況を総括した資料なので、資料1ー2の23ページから61ページの自己評価欄をご参照ください。 関係部署等との連携を深めながら、区民の困りごと等に対応できるよう努めてまいりますので、困りごとがありましたら、区役所にご相談ください。 区政会議で多くの意見をいただくため、資料を事前に送付するとともに、区役所からの説明をできるだけ短時間で行うよう努めています。 区政会議でいただいた困りごとやご提案等のご意見については、迅速に対応するとともに、区民にとってよりよい取組となるよう検討を進めてまいります。	①
32	R4.6	区政会議 全体会議	広報あべので、SDGsのマークをが掲載していたが、SDGsに詳しくなったように感じる、SDGsに詳しい区民がいるというのも経営課題4の魅力と活力にあふれるまちにつながるのではないかと。 【金光委員】（ご意見シートによる意見聴取）	SDGsの達成に向けて、区民のみならずSDGsを知っていただき、身近に感じてもらえるよう、引き続き、啓発に取り組み「誰もが住みたい住み続けたい阿倍野の実現」をめざしてまいります。	①
33	R4.6	区政会議 全体会議	マイナンバーカードを作ったが、ポイント付与や使用方法がわからない。 あべのんがマイナンバーカードのポイントを使っているイラストなどと共に、そういう情報も広報紙に掲載してはどうか。 【金光委員】（ご意見シートによる意見聴取）	区マスコットキャラクターあべのんもうまく活用しながら、今後もわかりやすい情報発信に努めてまいります。	①
34	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉の推進について』 区の事業、社会福祉協議会、自治組織、各団体の活動内容や、事業推進のための条件、課題などを、さらに委員間で共有できるとよいと思う。 さまざまな地域の生活と支援の現状と問題点について、再度全体的に整理しておくことが必要であり、専門職員、地域福祉活動の立場で感じている問題点、方法などについて報告・議論する機会も増やすとよいのではないかと。 これは地域福祉計画の議論で進めてきたことだが、あらためて全体として課題把握し、相互の関連も整理できるといと思う。 また、新型コロナウイルス感染拡大が続いているが、その中で経験してきたこと、地域のつながりの回復と新しいつながりの工夫、経済的困難や就労の問題など、どのように地域福祉計画に反映するか、今後検討を進める必要を感じる。 【永岡委員】	区政会議福祉・健康づくり部会や地域福祉推進会議を開催・運営していくにあたり、最大限配慮していくよう努めてまいります。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で経験したことを、地域福祉計画へどのように反映していくかにつきましては、今後、地域福祉推進会議で、ご議論、ご検討をお願いしたいと考えております。	②
35	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉活動の促進について』 地域福祉活動に関わっていない区民が「氣にかける」意識を高め、行動につながるためには、地域の問題を自分の問題と感じ、つながりを実感できるような身近なテーマを取り上げて、プライバシーも守りながら隣人とのつながりを強めるための小さな集まりや活動を地域ごとで企画できるといと思う。 防災はもちろんだが、環境保護、緑化、花づくり、食生活など、みんなで地域の中で出来る身近なことに取り組み、楽しみ、心がやすらぐようなことを発見できる仕組みができるようになればと思う。 【永岡委員】	まずは個別避難計画の作成について、プライバシーを守りながら隣人とのつながりを強めるための取組を個別具体的に進めてまいりたいと考えております。 区内10地域に配置され、地域のネットワークづくりに取り組む地域福祉コーディネーターや、高齢者が元気に暮らし続けることができるよう、居場所づくりに取り組む生活支援コーディネーターと連携し、支援を行いながら、仕組みづくりに取り組んでまいります。	①
36	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉活動の促進について』 戦略3-1について、令和3年度区民モニターアンケート実績では、1回目が2000人中792人が回答で回答率39.6%、2回目2000人中754人が回答で回答率37.7%であるが、現状を踏まえての分析はしているのか、数値の結果のみで単純に判断してよいのか。また、回答者の年齢構成も検討してみる必要があるのではないかと。 具体的取組3-1-1と3-1-2の目標について、結果が90%、100%とあるが資料からは母数がわからない。 【北村委員】	令和3年度区民モニターアンケート全体の回答率は、37.7%であり、福祉分野の質問に対する回答率も同程度になっており、区民ニーズを把握する上で有効なものと考えられます。アンケート全体の年代別回答率は18～34歳では20.6%、35～64歳では37.4%、65歳以上では50.5%で、年齢が高くなるほど、回答率が高くなっています。 「地域福祉活動に参加したことがある」と回答した人は、18～34歳では10.2%、35～64歳では18.6%、65歳以上では26.5%で、年齢が高くなるほど、増えています。 「地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じている」と回答した人は、18～34歳では40.9%、35～64歳では33.2%、65歳以上では37.2%で、35～64歳の方が一番低い割合になっています。 今後は年齢構成別の分析も行いながら、年齢層に応じた働きかけを検討してまいります。 参加者アンケートの母数は、具体的取組3-1-1については、100人、具体的取組3-1-2については、17人です。	①
37	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉活動の促進について』 地域福祉活動に参加したことのある区民の割合が、20.8%にとどまっていることは、現在の阿倍野区の高齢者人口割合から考えると高齢者に対してPR不足が否めない。「高齢者自身が参加できないというハードル」を下げる工夫が求められている。 児童の登下校時の見守り活動について、校区内のウォーキングを盛り込んだり、時間帯を決めての買い物したり、ウォーキング中の給水ポイントを設置する。協力者にはTシャツ配付など、高齢者でも参加できる地域活動にすることは可能である。 高齢者の中には、少しぐらいは地域貢献したいと思っている人も多くいると思うので、いろいろなアイデアを組み合わせれば実現可能な取組みと実績が残せると考える。 【北村委員】	高齢者が地域福祉活動に参加するハードルを下げる工夫について、具体的なご提案をいただき、ありがとうございます。他市町村の取組や、地域のご意見を伺いながら、検討してまいります。	②
38	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉活動の促進について』 地域福祉に参加する機会がない、一人では参加しにくいなどの理由で参加しない。大学生や学校を通してボランティア活動の周知を進めてほしい。身体障がい者団体協議会では、大学生が自転車を運転し、視覚障がい者と二人乗りする体験を企画している。手伝ってもらえる大学生に直接を声かけられる仕組みがあればいいと思う。今年、身体障がい者団体協議会では常盤小学校から福祉教育の依頼があった。住吉区や東住吉区からも幾つもの依頼があり、阿倍野区でも増えればいいと思う。 【金光委員】	さまざまな分野において、将来を担う学生との連携は非常に大切なことと考えております。ボランティアの育成に取り組んでいる区社協とも連携して検討してまいります。 なお、今年度は、若い方のアイデアを募集するなど、桃山学院大学等区内大学と連携し取組んでいます。 障がいのある方やご家族など当事者の方に福祉教育にご参画いただくことについては、福祉教育プログラムの事務局を担う区社協と連携し、機会を増やしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。	①
39	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『地域福祉活動の促進について』 新たな活動への支援は、今年度追加された取組みで良かったと思っているが、今までの認知症カフェとチームオレンジという形で3つの取組と、軽度認知障がい(MCI)の方が集える場の立ち上げ活動継続支援を生活支援体制整備事業と連携して実施しているところがあるが、特に軽度認知障がい(MCI)の方が集える場の立ち上げも始まっているのか、生活支援体制整備事業が、どういう事業でどういうふうに連携していくのかお聞きしたい。 【中村委員】	生活支援体制整備事業では、地域包括支援センターの圏域ごとに配置された生活支援コーディネーターにより、高齢者一人ひとりが、元気に暮らし続けられ、またちょっとした困りごとを解決し合える地域づくりをめざしています。認知症強化型地域包括支援センター、あべのオレンジチームが立上げ、活動支援を行っている「軽度認知障がい(MCI)が集える場」に生活支援コーディネーターが参加して、連携して支援を行っています。	①
40	R4.6	福祉・健康づくり部会 第1回区政会議	『当事者の参画について』 若い認知症の人たちの居場所がないというのはどの区でも言われているが、なかなか進まない。阿倍野区独自で、大阪市全体の制度に縛られることなく、認知症当事者の人たちの声を聞くところから始めて、どんな活動を望んでいるのか、どんな場所が要るのか、その当事者の人たちは何がしたいのか、経済的にも補助をしてボランティア活動の援助をしながらモデル的な活動ができればいいと思う。 当事者の人たちから発信する活動に、いろいろなボランティアリーな活動、あるいは応援したいという団体、あるいは企業等々が、運営方針の経営課題4のみんなが協力して地域をつくっていくところと連携しながら、やればいい動きになっていくと思うし、活動を区民のみなさまが目にすることで、輪が広がっていくと思う。 アイデアをみなさまで出し合っていくのに、当事者の人たちも巻き込んで区長がプロジェクトチームをつくっていただけると非常に楽しく発信力もあると思う。 【中村委員】	当事者の人たちを巻き込み、当事者の人たちから発信する活動をボランティアが支援し、団体を含めた地域づくりに広げていくという、取組について、ご提案をいただきました。引続き「ちーむオレンジサポーター」の立上げ・運営支援に取り組みを進め、他都市等の事例も参考にしながら、区社協と連携・調整して、検討を深めてまいりたいと考えています。	①

- 【分類】
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
41	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『当事者の参画について』 認知症について知りたいと思っている方々がたくさんいると思うので、今までのドクターのお話を聞く会や認知症サポーター養成講座などでなく、認知症の当事者の人が講師として講義すると認知症観が伝わる。認知症になっても、いきいきと生きていける、活動していける場が求められている、キャラバン・メイトの事務局のある社協にもお願いしたいが、当事者の方々が講師として招き、講義してもらいたい。本人たちも発信していきたいと思っており、心に響くいいお話になると思うので、当事者の講演を開催してほしい。 【中村委員】	認知症についてもっと知りたいと考えている区民のニーズに応えるため、講演会等の講師に、認知症の当事者になっていたいてはどうかとのご提案をいただきましたので、区社協と検討した結果、来年1月に開催する地域福祉講演会（映画上映会）のなかで、認知症当事者のお話を聞くことができる場を設けることといたしました。	①
42	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『当事者の参画について』 当事者の意見をもっと取り入れ、運営への参画をいただくことは私も大賛成だ。進めるにあたって、当事者参加、当事者主権がどのように、どこまで進められているか、区の状況と、全国、大阪での先進的な事例を把握することが必要であり、区でも講座・講演等でもっと語っていただき、皆で学ぶ機会を増やしてほしい。また、当事者の範囲は広く、発達障がいや心の病などさまざまな見えにくい立場の方がたくさんおられるので、そうした理解への配慮も必要だと思う。 【永岡委員】	事業を進めるにあたり、当事者の意見を取り入れ、運営への参画をいただくことにつきましては、区社協と十分意見交換をさせていただきながら、連携して取り組んでまいります。	①
43	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『福祉教育の推進について』 大阪市内の町会会員構成比率（現況調査結果）が、阿倍野区は6割とまだ高いほうだが、最高で7割。北区などは2割程度で各区共に減少傾向である。 ネット環境が広がって情報取得が簡単となってきたこともあり、他人からの世話は疎ましく感じる「自分中心」化が進んできている査証と考えられる。 様々な要因が重なって、目標の「みんなで支えあう地域づくり」のベースが崩れつつある。 長期展望で、児童生徒の段階からの地域とのかかわりを広げる教育分野への戦略が求められると思う。 各町会で行っている「児童生徒とのかかわり」を行政として取りまとめて、引き継いで、さらに拡大していくにはどうするのかを話し合う時だと思う。 一方、区民に対する行政からのPRを、高齢者は誰もが当事者となることも広くPRしてもらえると意識が変わる。 【北村委員】	児童生徒に地域とのかかわりを広げる取組については、区内の小中学校に「阿倍野区福祉教育プログラム集」にも取り上げられており、各校で福祉教育を行う際に活用していただき、実施後のアンケート結果などをもとにプログラムの改善につなげているところです。	①
44	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『福祉教育の推進について』 福祉教育のプログラムはこれまでの取り組みをふまえて、連携や議論の場が広がるようにと期待している。また、地域でのさまざまなサポーター養成のプログラムの拡充もニーズに沿って進むようにと思っている。 【永岡委員】	さまざまな機会を利用して、区の貴重な財産である「阿倍野区福祉教育プログラム集」をより多くの学校で積極的に活用いただけるよう努めてまいります。また、地域でのサポーター養成のプログラムについては、区社協の生活支援体制整備事業で着実に進められており、引き続き広報・周知などで連携してまいります	①
45	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『災害時の要援護者への支援について』 災害時の避難で要援護者名簿の活用方法が浸透しているというのが関わっていると思う。要援護者の方が名簿に登録することを理解してもらうことが大事だと思う。 【八代委員】	個別避難計画の作成を契機として、「災害時等要援護者名簿」を有効に活用していただけるよう、個人情報の取扱いに関する地域の皆さまの理解の促進や、日常的な見守りネットワークのさらなる強化につなげてまいります。	①
46	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『災害時の要援護者への支援について』 文の里連合でも要援護者名簿を保管している町会は1町会しかない。 避難の場合は、各町会長が情報を知っていても災害時に防災リーダーや民生委員に教えるすべがない。 オートロックのマンションの中に入れないため、居住の確認がしにくく、施設や病院に入られていることがあるのでまめに更新する必要があると思う。 また、災害時は停電になり、エレベーターやオートロックの扉が止まり、高齢者等が移動できなくなる。災害時に酸素が必要な人などは電気が切れたら命にかかわるので、電気に頼らないことも考える必要がある。 【家永委員】	災害時等要援護者名簿について、区役所では、年に2回大幅な名簿の更新を行っており、その機会に更新名簿の提供について地域連絡会議や民生委員・児童委員地区委員長会で説明させていただき、名簿提供の申請を行っていただけるように努めています。 停電時やオートロックへの対応などにつきましては、災害時の個別避難計画の作成にあたり、実際に要支援者へのヒアリング等を行っていく中で、具体的に検証しながら進めていく必要があると考えております。	①
47	R4.6	福祉・健康づくり部会第1回区政会議	『ヤングケアラー相談について』 ヤングケアラー相談窓口への相談はゼロ件ということだが、この問題は無いはずはなく、いかにニーズをキャッチしていくのかが、難しいと認識している。どういったケースがあるのか？ 【中村委員】	児童虐待防止アウトリーチ事業や子どもサポートネット事業の仕組みも活用し、ヤングケアラーの情報収集や実態把握に努めてまいります。 本市においては、8月から中高生世代のヤングケアラーへ向け、「大阪市ヤングケアラーへの寄り添い型相談支援事業」（実施事業者：NPO法人ふうせんの会）を開始し、「ちょっとしんどいな」の気持ちを、家族のケアをしてきた相談員へ話せる、YGピアサポ相談（電話・LINE・メール・面談により対応）やオンラインサロンの開催（毎月1回：Zoom）を行っています。	①
48	R4.8	安全・安心部会第1回区政会議	『マンション住民の防災意識向上について』 戸建てだけではなくマンションに対しての災害対策も進められるということはあるがたい。マンション住人の「自分たちは大丈夫」という安心感のような意識があり、避難訓練などへの参加も少ないという点が課題ではないかと思う。 【宮本委員】	マンションは耐震性が高く、在宅による避難生活が可能であることから、マンション特有の日ごろの備えや対応などに着目してマンション内の防災計画を作成しておくことは重要であると考え、今年度「マンション防災計画モデル作成事業」に着手し、モデルマンションの防災計画を作成します。 マンション防災計画作成にあたっては、在宅避難をベースとしたマンション特有の困りごとや日ごろの備えの必要性などを住人で共有しながら進めることとしております。「建物の安心感からくる地域の防災訓練への参加率の低さ」のような状況につきましても、日ごろの地域コミュニティとの関わりの重要性などをしっかりと伝えられるような取組にしたいと考えております。	①
49	R4.8	安全・安心部会第1回区政会議	『災害対応を担う若年層の育成について』 PTAからいろいろ意見を聞いてみたら、防災リーダーのことが出た。55歳くらいの方からの意見として、8割以上の方が私より高齢であり、やはり若い人材の育成が災害時には必ず力になると思うので、もっと力を入れてほしい。 災害時に高層マンションでエレベーターが止まった時に物資を運べそうな防災リーダーが少ないのでジュニアリーダーの育成や意識の向上に力を入れていただきたい。 ジュニアリーダーに意識向上や訓練をしているが、登録してもらえるまでがなかなか難しいとのことであるが、ジュニアリーダーに登録してもらえるよう中学校へ周知するなどに力を入れてほしい。 防災リーダーの高齢化が問題だということではなく、共助の場合の役割分担として、中学生や高校生のジュニアリーダーの役割が、重要であり、ジュニアリーダーの育成は共助の役割分担としてもっと意識を高めてほしい。 【本庄委員】	当区の防災リーダーの平均年齢は60.6歳となっています。防災リーダーに担っていただく役割の性質上、若い方が望ましいというご意見はありますが、地域の事情等もあり、年齢制限を設けるというの難しい課題があります。また、災害時の女性の視点も重要であることから、今後とも防災リーダーのご推薦にあたっては自主防災組織の皆さんとよく相談させていただきながら進めていきたいと思っています。 防災ジュニアリーダーにつきましては、阿倍野区独自の取り組みであり、現在31名の登録をいただいております。 地域防災リーダーは各町会3名を定数としてご推薦をいただき任意させていただいておりますが、防災ジュニアリーダーは中学生の防災訓練などの際にチラシなどで紹介したり、地域役員の方の知人つながり、登録していただけたジュニアリーダーのお友達など、子どもたちから申請していただく仕組みとなっています。委員ご指摘の「共助の中の中学生の役割」というところは、戦略の3本柱のひとつである「若年層の防災力向上」として運営方針に掲げているところであり、さらに充実、強化をさせていきたいと考えます。	①
50	R4.8	安全・安心部会第1回区政会議	『いろいろな媒体を活用した情報の発信について』 我が家の防災プランnaviを実際に家族でやってみたり、1週間分の食料備蓄にも取り組んだが必要なものをそろえるのに1か月もかかってしまった。 防犯も防災も当事者意識が上がらないと次の行動につなげていかないと思う。当事者意識を上げていくツールとしてはそれぞれ情報の取得方法が違い、チラシや、ツイッターやインスタグラムなどSNSで情報をキャッチしている方も多くおられる。 阿倍野区のツイッターやインスタでは、マイナンバーのポイントとかイベントがありますよというものが多く、例えばツイッターで災害情報が流れるのであればいいと思う。当事者意識を上げていくには、一つの媒体にこだわらず、いろんな方法で情報を出していき、「あなたは当事者ですよ」という形で巻き込みながら情報を発信していったりすると町全体が活性化していった「阿倍野ってこんなことやってるんや」みたいなことをみんなで共有していくうちよくなっていくと思うので、粘り強く阿倍野区の取組をたくさん世代に広く認知してもらうよう取り組んでいただきたい。 【高橋委員】	防災プランnaviの普及拡大を進めるため、中学校の防災教育や出前講座などでは、教材として活用し、実際に（家で）やってみようという働きかけをしています。生徒や参加者の方の反応もよいのですが、結果として現状では家族で話合っている割合と実際に何かに取り組んでいる割合に乖離があります。この乖離を埋めるために紙媒体だけではなくSNSも使っていただくが大切だという貴重なご意見を踏まえ、区民の皆さんが当事者意識を高めていただけるよう、粘り強く取り組んでまいります。 また、地域団体とも相談し、地域の掲示板や地域イベントなどでも情報発信してまいります。 今後、全ての世代に応じた情報発信方法を意識し、必要な情報が必要な方へ届くよう工夫するなど、当事者意識の向上をめざし、引き続き情報発信を進めてまいります。	①
51	R4.8	安全・安心部会第1回区政会議	『個別避難計画について』 個別避難計画をモデル地域で進めているとのことであるが、具体的な進捗状況についてわかる範囲で答えてほしい。 【今井委員】	個別避難計画は災害対策基本法の改正により市町村に義務付けられたもので、当区では全地域一斉ではなく、モデル地域（常盤地域）を選定し、個別避難計画作成のケーススタディを進めていくこととしました。 個別避難計画は災害時の避難支援であることから、自主防災組織の要である町会長に協力をお願いし、速やかな避難が難しいと思われる要介護5の認定の方、身体障害者認定1級の方のうち、車いすの方や視覚障害などの方を対象者として進めています。	①

[分類]
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
52	R4.8	第1回区安心部会議安	『個別避難計画について』 個別避難計画は、それぞれの家庭に配布されるということでよいか。 【荒田委員】	阿倍野区では、要援護者名簿に記載された方のうち、地域の自主防災組織に状況や個人情報を提供してもよいという同意をいただいた方の名簿を作成し、平常時の見守り事業を実施しています。 その名簿に記載のある方の中で、要介護5の認定の方と身体障害1級認定の一部の方を災害時の速やかな避難が難しい方ということで、個別避難計画の作成対象者としています。 個別避難計画は、その対象者の個々の状況と災害時の避難や避難所生活で支援が必要な事などの支援情報を直接お聞きするため、自主防災組織の要である町会長等と連携しながら進めており、完成した個別避難計画は、ご本人及び地域の自主防災組織役員（町会長など）と区役所で共有し、有事の際に備えることになります。	①
53	R4.8	安全1回区安心部会議	『安まちメールの推進について』 安まちメールを拝見しているが、特殊詐欺被害が多く配信されている。ただ、交通安全についてのメール配信がない。ながら運転などをしている方を見ない日はなく、もっと交通安全について配信をお願いする。各地域や、学校、幼稚園に通わせている保護者に安まちメールの推進を図っていただければ、モラルも向上するのではないか。また交通安全推進委員として活動する中で、阪南地域でも子ども見守り隊として80人の登録者の中で概ね40人が毎日子どもたちを見守っている。春秋の交通安全、防犯活動等も実施しており、ぜひ警察官、区役所の方には、ねぎらいの言葉もかけていただければ、地域の励みにつながる。 【久保委員】	安まちメールを活用した交通安全啓発に関する配信については、阿倍野警察署が充実を図り、すでに対応いただいております。 また、区役所でも安まちメール情報の配信を区役所のツイッターでも行っており、引き続き防犯、交通安全啓発の充実に努めてまいります。 子ども見守り隊等の活動について、毎日実施していただいております、子ども達の安全、また地域の防犯、交通安全にご尽力いただき誠にありがとうございます。ご意見につきましては、阿倍野警察とも共有してまいります。	①
54	R4.8	第1回区安心部会議安	『建設途上の建物への不法侵入の件』 丸山地区の特養建設がとん挫したままの場所での子どもたちの不法侵入の件は、今井委員や阿倍野警察署のご尽力があったと思うが、すっかり静かになり夏休みまでに解決している。 【本庄委員】	前回の勉強会でいただいた不法侵入のご意見については、阿倍野警察署に情報共有を行い、パトロールの強化を行っていただいております。 また、地域団体などのパトロール時に建物への不法侵入などを発見した場合は、110番通報をするようお願いし、区役所としても、日々の巡回を強化しました。 今後も区政会議などでいただいたご意見については、引き続き阿倍野警察署と情報共有を図り、即時対応につなげるよう連携してまいります。	①
55	R4.8	第1回区ちづくり部会議ま	『地域活動への若い世代の参画・人材育成の支援』 地域活動への若い世代の参画、人材育成の支援について、具体的に区役所はどのようなプランを考えているのか。 【東野委員】	区役所と地域の中間支援組織である「まちづくりセンター」と協力し、地域と企業・団体・学校の交流の場の事業である「あべのほっとカフェ」事業の開催や、令和4年度は、若い世代、主に学生をターゲットに、新たな地域活動の提案募集事業「まちづくりビジネスアイデアコンテスト」を8月と12月に開催し、人材育成の支援に取り組んでいます。	①
56	R4.8	第1回区ちづくり部会議ま	『地域活動への若い世代の参画・人材育成の支援』 清明丘地域では、3年ぶりの盆踊りの開催だったが、当日各ブースにおいて高校生が手伝ってくれた。事前会議からの参加であれば、ハードルも高く意見も言いにくいかもしれないが、1年1回の当日のみの手伝いとか、気軽な感じでの参加が地域活動への参画のきっかけになることを感じた。 【森委員】	清明丘地域の若い世代の事業への参画の好事例を、各地域とも共有し、区役所・まちづくりセンターも協力し取組を進めてまいります。	①
57	R4.8	第1回区ちづくり部会議ま	『地域活動への若い世代の参画・人材育成の支援』 阿倍野区の魅力を発信している地域団体「あべのつて」の活動で、学生部が新しくでき、若い方がまちや地域に絡みたいと思ってる人が、結構いることに気づいてきました。何かまちと絡みたいという若者がいるのにお金がかかるので場所がなく集まらなかったり、聞われないという悩みがあることを知りました。そういう場合の支援についてわかりやすくPRしていただきたいと思う。 【大森委員】	新たな担い手が不足しているという話がある一方で、地域に絡みたいって思っている若い方もいらっしゃる、というのは大変嬉しい情報です。「まちづくりセンター」とも協力し、地域と企業・団体・学校の交流の場の事業である「あべのほっとカフェ」事業などを通じて、それぞれをマッチングしていきたいと考えております。	①
58	R4.8	第1回区ちづくり部会議ま	『地域活動への若い世代の参画・人材育成の支援』 町会への加入勧誘をする中で、若い方は、町会に対してどんな魅力があれば入りたいと思えるのか、どのように感じているのか素朴な疑問がある。例えば、区役所の中でも区内在住の20代、30代の職員に意見をもらえれば、町会への勧誘や活動に対しても参考になると思う。 【東野委員】	いただきましたご意見を受け、阿倍野区近隣に在住の大阪市職員の中で、災害時にいち早く駆けつける用指定した直近参集者及び緊急区本部員に対し、自治会・町内会活動などについて、アンケート調査を実施しているところです。	①
59	R4.8	第1回区ちづくり部会議	『自治会・町内会の加入促進』 自治会・町内会の加入促進について、新しい方の参加要請に苦勞している。区役所作成の啓発チラシはどう活用されているのか、広報あべのの1面の「自治会・町内会に加入しよう」の記事は受け取る側に伝わっていない。例えば、各町会の輪番制で、町会長さんや実際に町会で活動している方の記事を掲載してはどうか。 町会加入で一番苦勞しているのが、新しくできたマンションに入ってこられる方、確かに今町内会に入るのは個人の自由で、大家に言っても私たちは関係ないみたいの方が多。啓発チラシを定期的にポスティングするしかないと思うが、啓発についてはどう考えているのか。 【東野委員】 広報あべの1面に「自治会・町内会に加入しよう」の枠があるが、一時は最終面に各地域の行事紹介があった。1面の部分とのつながりがあれば興味をもってみてもらえるのではないかと、改めて各地域あるいは町会の発表も入れていただくことをお願いしたい。 【高岡委員】 町会の加入の問題、町会員が不足している。町会に入れない方が多いと思う。 他市でも、入れない方が多く、理由は会費、会費を払って町会の役をする。メリットがないという考え方が多々ある。 広報紙に、「自治会・町内会に加入しよう」というだけではなく、防犯灯の費用は行政が持ってくれているというような感覚がほとんどと思うので、町会費で防犯灯の維持しているなど、各町会の活動内容のアピールをして、みなさんに見ていただくというのが必要というのが私の考え方です。別の町会では、会員にならなくても防犯灯の電気代だけはもらいますよ、というような町会もあるようだ。 【和田委員】 祖母の代から阿倍野区に住んでいる、当たり前のように町会に入ってるので、いろんな方に町会に加入しない理由を聞いたところ、町会のイメージが「何かやらなければならない」とか、「自分の母が町会でしんどい思いをした」など否定的なものである。町会の活動が見える形になれば、1人でも多くの方が入るのではないかなと感じました。 【岡本委員】	広報あべの1面の「自治会・町内会に加入しよう」という啓発記事は今後も継続してまいります。 各地域の紹介記事については、過去に10地域の輪番制で掲載していたことがありますが、ご提案をいただきました街路防犯灯の維持管理や地域ごとの特色ある事業などの掲載に向けて検討してまいります。 また、自治会・町内会加入啓発チラシの活用につきましても、区役所では、転入者へ配付しているほか、地域においても活用いただいています。今後も、各地域と相談しながら有効に啓発できるように検討してまいります。	①
60	R4.8	第1回区ちづくり部会議	『おさんぼmap』5ページのあべのdakaraの発信についてですが、YouTubeもあったように思いましたが、これもすぐ面白くていいなと思った。可能であれば地域の盆踊りや大きい祭りのときに何百とか置いていただいたら、絶対喜んで持って帰っていただけたと思う。 【森委員】 おさんぼmapの部数をたくさん作成していただいてイベントに置いていただいて、みなさんが持ち帰り、家には絶対これが1冊あるんだぐらいの状況ができれば、より阿倍野というのがPRされるのではないかと。 【高岡委員】 おさんぼmap、いろんなところで手に取ってもらえて本当に一家に1冊ある状況になればいいなと思う。とても内容が充実していて、私も阿倍野に来て5年ですが、これを見たらすごくいいところがいっぱいわかるので、普及したいと思う。 【大森委員】	あべのおさんぼmapについては、区役所や区民センターやハルカス、キーズモールなどに配架しています。 今年度、新たなマップを作成する予定にしていますので、できるだけたくさんの方々に届くよう地域のイベントやお店等にもご協力をいただきながら配布してまいります。	②
61	R4.8	第1回区ちづくり部会議	『おさんぼmap』 あべのおさんぼmapは、情報だけでなくスタンプがあるおかげで阿倍野以外の人やお子さんも一緒になって楽しめたり、大人もスタンプは大好きなので、QRコードとか載っていると若い世代の方も情報をすぐ取れるので、スタンプに加えてQRコードとか載ってたり、お店がもっと載ったら楽しいと思いました。 【岡本委員】 4ページ目のところで目標未達成の場所があるので、ここを潰していかないと目標達成しないと思う。マップとか色々試行錯誤されて作られると思うのですが、これを果たして有効活用できているのかどうかの検証と、もう少し違った観点で何かつくろうかというプロジェクトみたいなものを作って、それがこのまちづくりの部会なのか分かりませんが、そういった活動を今後ちよつとめざしていきたいなどは個人的には思っている。 【小寺委員】	今年度に発行する「おさんぼmapにぎわい版」は区内のお店や企業も掲載し、バージョンアップしております。 また、11月から実施予定のデジタルスタンプラリーは、幅広い世代の方楽しんでいただけるようスマートフォンを使用し、QRコードを読み取ることでスタンプを獲得できる仕組みとしております。 こうした取組を通じて、「魅力あるまちと感じる区民の割合」を増やすという目標の達成、ひいては、「魅力と活力のあるまち」に向け、取り組んでまいります。	①